

癌化学療法名 膵臓癌 アブラキサン+ゲムシタビン療法

(Weekly nab-パクリタキセル+ゲムシタビン)

実施部署	外来・入院	1クール日数	28day	未承認
番号	抗がん剤名・略称	1日投与量	投与方法	投与日
1	パクリタキセル:アブラキサン(nab-PTX)	* C法 125mg/m <sup>2</sup>	div.(点滴静注)	day1,8,15
2	ゲムシタビン:ゲムシタビン(GEM)	1000mg/m <sup>2</sup>	div.(点滴静注)	day1,8,15
* 原則、膵臓癌はC法(1日1回125mg/m <sup>2</sup> )だが、有害事象を考慮して1~2段階減量投与を検討する。				
コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アブラキサンは、パクリタキセルのアルブミン結合型。血液製剤なので、管理伝票が必要。</li> <li>・1日目開始時は好中球&lt;1500/mm<sup>3</sup>又は血小板&lt;7.5万/mm<sup>3</sup>、Hgb&lt;9g/dL、末梢神経障害≥Grade3(G2以下でも減量を考慮する)の場合は延期</li> <li>・8、15日目開始時は好中球&lt;1000/mm<sup>3</sup>又は血小板&lt;10万/mm<sup>3</sup>、末梢神経障害≥Grade3(G2以下でも減量を考慮する)の場合は延期</li> <li>・制吐薬ガイドラインより、2剤併用で催吐リスクは中等度リスク分類になるため、5-HT<sub>3</sub>拮抗薬としてパロノセトロンの使用を推奨する。</li> <li>・過敏反応予防としての前投薬は不要</li> <li>・インラインフィルターは使用しない</li> <li>・調製後の懸濁液は保存剤が含有していないため速やかに使用すること。やむをえず保存を必要とする場合は、冷蔵庫(2~8℃)に遮光保存して8時間以内に使用すること</li> <li>・生理食塩液で調製し懸濁液とし、希釈はしない(アブラキサン粒子が崩壊するため)</li> </ul>			

投与日	薬剤名	ルート	時間
day1、8、15	① 生食100mL + デキサート6.6mg+アロキシ静注0.75mg	div	30分
	② 生食50mL	フラッシュ	
	③ <b>アブラキサン125mg/m<sup>2</sup></b> + 生食50mL(3バイアル以上の時は100mL使用 (1バイアル当たり生理食塩液20mLで溶解し、空ボトルに注入)	div	30分
	④ 生食50mL	フラッシュ	
	⑤ <b>ゲムシタビン125mg/m<sup>2</sup></b> + 生食100mL	div	30分
	⑥ 生食50mL	フラッシュ	